

週刊「中国・アジア」ダイジェスト

2013.02.25-03.01

*記事は東京発行・最終版

CHINA

2月25日(月)

車載用ニッケル水素電池を量産
湖南科力遠 / パナから事業買収

パナソニックから車載用ニッケル水素電池事業を買収した中国・湖南科力遠新能源股份有限公司は、2013年10月にも中国で同電池の量産に乗り出す。日系電池メーカーの競合に。(6面)

2月26日(火)

大豊工業、ライン増設
エンジン軸受 / トヨタ中国 2工場向け

大豊工業は、エンジン軸受の細谷工場に小規模で高効率な機械加工ライン「Rライン」を8月に1本増設する。月産能力は60万個。トヨタの中国の天津と広州工場向け。(5面)

ブリヂストン、瀋陽工場移転

トラック・バス用 / 日量5000本
ブリヂストンは、瀋陽市にトラック・

韓国の新たな大統領に朴槿恵氏が25日就任した(ブルームバーグ)



バス用タイヤ工場の建設する。同市の都市開発に伴い、現在所在地から、同じ市内の工業団地に移転することに伴うもの。生産能力は日量約5000本。(5面)

日通、中国に3支店増設

長沙・天津・上海 / 日系自動車向け

日本通運は、中国の現地法人2社が支店を開設した。湖南省長沙市と天津市、

上海市に開設。自動車関連の日系企業が進出、部材調達や製品配送など物流ニーズに対応する。(19面)

2月27日(水)

ヤクルト、中国で拡販

重慶日販3万1000本 / 鄭州2万8000本

ヤクルト本社は、中国ヤクルトを通じ

て重慶市と河南省鄭州市で乳酸菌飲料「ヤクルト」の販売を始める。重慶は1日3万1000本、鄭州は2万8000本。内陸部などで支店を開設し、伸ばす。(17面)

2月28日(木)

日本トムソン、青島・瀋陽に拠点

ニードルベアリング・直動案内機器

日本トムソンは、中国での市場開拓と販売力強化を目指し、山東省青島市と遼寧省瀋陽市に販売拠点を新設する。ニードルベアリングや直動案内機器を拡販する。中国販売拠点は10拠点。(7面)

東洋紡、中国で職務発明規定

訴訟リスクを回避

東洋紡は、中国で従業員が職務上発明した技術や製品を企業が継承する「職務発明規定」の運用を始めた。訴訟リスクを回避する。「先使用権」を行使する体制も整えた。(16面)

中国で医療機器を増産

日本光電 / 新興国向け

日本光電は、中国で新興国向け医療機器の開発と生産を拡大する。中位機種は血球計数器を現地生産する。新興国向け製品の開発・生産機能を中国に移管し、コスト競争力を高める。(20面)

田辺三菱製薬、天津に新工場

インドネシアにも / 200億円で内外増強

田辺三菱製薬は、2016年までに200億円を投じて国内外の生産能力を増強する。海外では中国・天津とインドネシア・バンドンの2工場で新棟を建設し、アジアの市場拡大に備える。(20面)

北京に食品スーパー

セブン&アイ / 和洋中の総菜・弁当

セブン&アイ・ホールディングスは、北京市で食品スーパー「華糖ヨーカ堂食品館三里屯店」をオープンする。売り場面積は2040平方メートルで和洋中華の総菜や弁当などの簡便メニューなど。(25面)

知財保護で日中仲介

中小の中国進出促進 / TAMA協会

TAMA協会は、中小企業の中国進出に伴う技術流出を防ぐため、知的財産を保護する技術連携の仲介体制を整える。コーディネーターなど現地パートナーを開拓、フォロー体制を強化。(38面)

西安の大気環境改善を支援

太平洋人材交流センター

太平洋人材交流センターは、西安市の大気環境改善を支援する。京都市と共同で、西安市の環境分野の行政官5人を招

き、日本や京都市の大気環境改善のノウハウについて研修する。(39面)

3月1日(金)

中国の統括会社、移転拡張

トヨタ紡織 / 開発スペース3倍

トヨタ紡織は、中国の統括会社を移転拡張する。上海市内に新社屋を建設。分散している管理部門と開発部門を統合し、2014年7月に移転する。開発用スペースは現在の3倍に。(5面)

カワタ、中国に新工場

ブラ成形成装置 / 生産拡大

カワタは、プラスチック成形機周辺装置などを生産する中国の100%子会社で、新工場を2014年12月に建設する。3工場を新工場に移転集約し、効率化と生産拡大を図る。(6面)

CNC旋盤・MC、中国で生産

ヤマザキマザック / 日本から移管

ヤマザキマザックは、大連市の遼寧工場が3月本格稼働するのに伴い、日本で販売しているCNC旋盤と立型MCの計6機種の生産を日本から移管する。機能を絞った低価格帯の小型機械。(7面)

ASIA

2月25日(月)

米・シンガポール工場を拡張
ヤマザキマザック / 旋盤・MC

ヤマザキマザックは、米国とシンガポールの工場を2014年に拡張する。旋盤とMCを生産する米国は月産135台から200台、小型旋盤のシンガポールは同80台から130台に引き上げる計画。(1面)

パキスタンに2輪車の新工場

ヤマハ発 / 年40万台

ヤマハ発動機は、パキスタンで2輪車の新工場を2015年に稼働する。当初年産4万台で始め、2020年に同40万台とする計画。総投資額は約100億円。関税が高いため、現地生産に踏み切る。(6面)

トラスコ中山、海外部を新設

タイ現法の国内窓口機能も移管

トラスコ中山は、海外部を新設する。営業企画部の海外販売課と外国語営業課、商品部の海外調達課の3課を海外部に。併せてタイ現地法人の国内窓口機能を海外販売課に移す。(7面)

近鉄エクス、インドに第7倉庫

ムンバイの北東350km

近鉄エクスプレスは、インドのアウランガーバードに倉庫を開設した。ムンバイの北東350キロメートルのインドの倉庫は七つ。新倉庫では自動車関連部品を中心にロジスティクスサービスを提供。(14面)

シンガポールに事務所

藤田観光 / 現地法人化も

藤田観光は、シンガポールに駐在員事務所を開設した。ASEANから日本を訪れる観光客の拡大を図る。海外事業拡大に向けた情報収集などを進める。将来的に現地法人化も。(14面)

2月26日(火)

「第2の漢江の奇跡」に挑む

韓国・朴槿恵大統領が就任

韓国の朴槿恵新大統領は、就任式で演説し、「経済復興」「国民幸福」「文化隆盛」の三つの目標を提示した。また経済政策は「第2の漢江の奇跡」を実現するために挑戦する。(時事=2面)

日本製品、不買運動へ

韓国団体 / 600万人規模

約600万人に上る韓国の「小規模商店街再生消費者連盟」は、「竹島の日」記

念式典に政府代表が初めて出席したこと
に反発し、3月1日から日本製品の不買運動を始める。(時事=2面)

撤退=進出マッチング

アジア / 日本M&Aセンター

日本M&Aセンターは、主要事業である中堅・中小企業のM&A仲介業務を4月国際展開する。アジアを中心に、撤退を検討する日系企業と海外進出を目指す国内企業のM&Aを支援する。(23面)



ベトナムの日系縫製企業

ケーヒン、インド第3工場

2輪部品 / 1500万台

ケーヒンは、インド南部にキャブレター(気化器)などの2輪車用部品を製造する工場を新設し、2014年4月に生産を始める。2016年度に約1500万台。2輪車部品工場としては3工場目。(5面)

中部工業、ベトナムに工場

プリンター部品 / 月3万本

中部工業は、ベトナム・ピンズン省にOA機器向けの精密切削部品工場を建設する。10月に稼働。プリンターのトナーカートリッジ関連のシャフト部品を月間3万本生産する。(9面)

シスコ、次代の「人財」アジアに

シンガポール現法

シスコシステムズは、社内公募で選抜した若手社員を米国本社傘下のシンガポール現地法人に4月派遣する。日系企業のアジア現地法人を支援するとともに、次代を担う「人財」を育てる。(12面)

インド進出支援で新会社

旭化成 / グループ各社

旭化成は、グループ各社のインド進出を支援する現地法人「旭化成インディア」を設立、3月に営業を始める。ウイリス除去フィルターや自動車向け機能樹脂など展開。(13面)

インド自動車設計が広島に拠点

SATVEN / 県が取引先開拓

広島県の誘致を受けて、インド・自動車の総合設計サービス業SATVENは日本で初めての事業拠点を広島市に開設する。県は取引先の開拓、事務所探しを

支援してきた。(31面)

2月27日(水)

川重、発電用ガスエンジン受注

インド / 出力7800kW

川崎重工業は、インドのスターリング・アンド・ウィルソンから発電用大型ガスエンジンを受注した。出力7800キロワット、発電効率は世界最高レベルの49.0%。卸電力事業発電所向け。(7面)

ベトナムにミシン工場

ブラザー / アジア向け量産機種

ブラザー工業は、ベトナム・ハイズン省に工業用ミシンの工場を建設、2014年5月稼働。海外生産拠点は中国に続き2拠点目。海外生産の一極集中リスクを回避。アジア向けに量産機種。(8面)

中部電力、タイでメガソーラー

現地企業の株取得

中部電力は、タイで大規模太陽光発電(メガソーラー)事業に参入した。現地のガンクル・パワーゼン株式49%を取得した。中部電が海外のメガソーラー事業に参画するのは初めて。(15面)

日本郵船、アジア航路を改編

ルート分割 / 日数を短縮

日本郵船は、3月下旬からアジア航路を改編する。日本・タイ・インド西岸航路を日本・タイ・インドの2ルートに分け日数を短縮。日本・インドネシア航路は船を増やす。(17面)

2月28日(木)

富士重、東南アで攻勢

小型SUV / 33倍、年1万台

富士重工業は、東南アジアで攻勢。マレーシア生産を始めた小型SUV「XV」をタイ、インドネシアでも拡販。3カ国の販売を日本からの輸出車と合わせて2015年に約33倍の1万台に。(5面)



マレーシアで現地生産を始めた
小型SUV「XV」

三菱電機、印にFA開発拠点

中国と連携 / グローバルな技術開発

三菱電機は、インドでのFA機器事業拡大に向け、マハラシュトラ州プネにF

A開発センターを設置する。現地向けセンサーや表示器。中国と連携、グローバルなFA機器用技術開発。(7面)

日本商社・韓国企業・連携加速

海外でインフラ開発

日本の商社と韓国企業が連携し、海外でインフラ開発に取り組む事例が増えている。商社には新たな取引先を開拓。韓国企業には実績の少ない国で日本商社の後ろ盾で受注できる利点。(21面)

日本の商社と韓国企業の連携事例

()内は完成予定時期

三菱商事
韓国ガス公社=インドネシアの液化天然ガス製造・販売事業に共同参画(2014年末)

三井物産
大宇建設=共同でモロッコの大型石炭火力発電所建設を受注(2014年4月)

伊藤忠商事
SK建設=共同でトルコの石炭火力発電所のEPC(設計・機器調達・建設)契約受注(2015年2月)

住友商事
韓国電力公社=共同でアラブ首長国連邦の発電プロジェクトの事業権益の一部取得(2014年3月)

丸紅
現代建設=丸紅がコントラクターを務めるバングラデュー・ハリプール複合火力発電所建設工事を現代建が請け負う(2013年夏)

双日
大林産業=共同でベトナムの石炭火力発電所プロジェクトを受注(2015年)

東アジアと研究・技術協力強化

ドイツ航空宇宙センター / 東京事務所

ドイツ航空宇宙センターは、日本をはじめ中国、韓国、インドネシアなどの東アジア地域の各国と研究や技術協力を強化するため、東京事務所を開設した。東アジア地域の「中核拠点」。(31面)

3月1日(金)

黒田氏、アジア開銀辞任へ

後任に中尾財務官

アジア開発銀行は、黒田東彦総裁が3月18日付で辞任する意向を表明した。日銀の次期総裁に黒田氏を充てる人事案を国会に提示したため。後任に財務省の中尾武彦財務官を擁立する方向。(3面)

日本電子工業、タイで熱処理

日系自動車部品向け

日本電子工業は、タイで自動車部品の金属熱処理事業を3月中旬をめどに始める。タイ現地法人に高周波焼入れ装置を導入した。日系自動車関連メーカーによる外部委託増加に対応する。(5面)



タイでこれまで約20基の受注実績がある
(以前受注したガス発電設備)

IHI、タイで受注

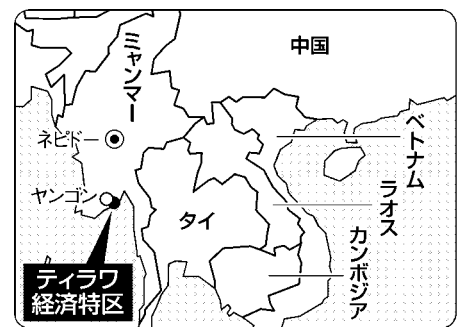
出力10万kW / 4系列500億円

IHIは、タイの小規模発電事業者から出力10万キロワットのガスタービン複合発電設備を受注した。計4系列・40万キロワットで受注額は総額約500億円。10年間で計100万キロワット超の受注を目指す。(1面)

先行開発で10万人雇用

ミャンマーのティラワ経済特別区

ミャンマーのティラワ経済特別区は、日本、ミャンマー両政府が官民出資で約2400ヘクタールの工業団地を開発する。44%を先行開発し、日系企業の進出を促す。先行開発で10万人の雇用を見込む。(2面)



知財法整備へ実務面で協力

ミャンマー / 特許庁長官

特許庁の深野弘行長官は、ミャンマーの首都ネピドーで、コー・コー・ウー科学技術相(知的財産権行政)と会談。知財関連法整備や知財庁の設立へ、日本が人材育成などの協力で合意。(2面)

ミヤチテクノス、タイに移管

中国生産の抵抗溶接機 / 輸出分

ミヤチテクノスは、中国で生産している抵抗溶接機のうち、日本向けなど輸出分をタイに移管する。中国の賃金上昇や日系工場の安定稼働に対応しながら、東南アジア市場の拡大に備える。(6面)

東洋エンジニア、インドネシア受注

アンモニアプラント / 日産2000トン

東洋エンジニアリングは、インドネシアのスラバシ島中部でアンモニアプラントを現地企業から受注した。日産2000トン

医薬品認証でアジアをリード

「医薬品のアジアでの

相互認証を何としても実

現したい」と日本製薬工業

協会会長で塩野義製薬

社長の手代木功さん。良

い薬が行き渡るスピードを大幅に上げら

れる。「日本の医薬品は品質が高い。制

度づくりでアジアをリードして日本の

存在感を高めたい」。(28日=20面)

海外需要の伸びにどう対応

「ASEANが一区切り

りついたら次はインドや

ブラジルが視野に入っ

てくる」と将来展望を話す

のはファインシンター社

長の水野豊さん。同社は粉末冶金部品メ

ーカー。インドネシア工場を開設。「海

外は需要の伸びにどう対応するか」が中

長期の課題。(1日=5面)

通信講座

テクニカル・イラスト
立体図面通信教育講座

基礎コース開講期間●申込時より約4ヵ月

教育内容●立体図法の90%を占めるアイソメトリックス・プロジェクト、アイソメトリック・ドローイングを中心に基礎から自社製品の作図まで徹底指導

修了証書●既定の単位を取得した受講生には日本BtoB広告協会認定の修了証を授与します

受講料●1名¥31,500(会員は27,300円)テキスト、副読本、用具、添削指導を含む

定員●40名

不況に強い「特 技 取 得」

テクニカル・イラストレーターになるう。

4ヵ月でマスターできる、基礎から専門技術まで。

いま、特技を身につけよう!!

テクニカルイラストは、広告、カタログ、取扱い説明書などの製作には不可欠なビジュアル。しかし、欧米に比べ、日本ではテクニカル・イラストレーターの不足が指摘されています。当協会では、基礎から専門技術までを短時間で取得できるカリキュラムを編成。多くの講座修了生が産業広告界の即戦力として活躍しています。

BBAA

—お問い合わせ次第説明書進呈—

一般社団法人 日本 BtoB 広告協会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 2-11-3 東信水天宮ビル

TEL 03-5645-8852 FAX 03-5645-8853

http://www.bbba.or.jp

※後援 / 日刊工業新聞社